

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年2月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172600906
法人名	医療法人社団 康誠会
事業所名	グループホーム ローズガーデンおおの
所在地 (電話番号)	揖斐郡大野町瀬古232 (電話) 0585-36-0078

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成20年1月25日

## 【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	11.8 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1階～2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400	円	

## (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	71歳	最高	93歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	小林医院、おおのクリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム ローズガーデンおおのは、病院に隣接し、庭園を活かした建物である。四季折々の景色が楽しめる開放感あふれる共有空間があり、ここが食事・レクリエーション・憩いの場となっている。一階には猫も同居しているなど家庭的な雰囲気もある。「家庭的な雰囲気の中で安心してその人らしく生き生きと暮らせるように」を理念とし、職員は常に初心をふり返りながら利用者主体の生活となるように、地域の中で心身共に安心できる生活の支援を目指している。法人を母体とし、医療体制も連携が取られ、終末期の看取りも職員全体で受け入れる体制がある。市町村の協力も得られ家族の訪問も多く、地域の中でその人らしく生活できる一人ひとりの個別の支援がされているホームといえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点は無かったが、毎日30分の職員会議が各ユニットで行われ、運営に対する意見やケアプランに対する検討、運営理念の浸透が行われている。更なる地域密着型サービスの向上への取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は各ユニットでありのままに評価を行った。日々のケアを振り返るよい機会となった。その後のサービスの視点に沿って、利用者の特徴を考え、皆で話し合いながら積極的に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では利用者の状況やグループホームの情報提供を行い、サービスの向上に努めている。会議の内容は記録に残し、職員会議等でも検討され活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付窓口、意見箱もあった。また、外部の相談員は、医院の看護師と民生委員で、ほとんどの家族が面会に来られるので、できるだけ希望や意見を聞き運営に反映されるよう努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の日常生活における方針は普通の一人の人間として暮らせるよう、その人の希望や能力に合わせて支援されている。散歩や外出の折には地域の人々と話したり、自治会加入や公民館活動参加、ボランティアの受入れ、地域との交流に努めている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は利用者が、「その人らしく安心して地域の中で今までの関わりを続けられる事」を目的に、事業所独自の理念を述べている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と理念に対する考え方を共有し、ユニット会議で話し合い実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し地域活動に参加する努力をしている。文化祭への出展、近所の人や小学生のボランティア活動等、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットごとに評価し、具体的な改善目標を掲げ、評価に対する理解を深めている。また、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は外部委員を含め、定期的に利用者に状況やサービスの情報提供を行い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは会議以外にも常に連絡し相談や話し合いが出来る。町内グループホーム共同のポスターを作成し役場に掲示する等共にサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホームの新聞を作成し、健康状態や金銭管理等郵送し、個々の家族への連絡も行っている。ほとんどの家族の面会がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、意見箱もあり家族の意見を運営に反映させている。また、第三者の選任もなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や施設長は、職員の離職は信頼関係の出来ている利用者にとってダメージが大きい事を認識し、定期的に個人相談等を行い、悩みや希望を知り離職のないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会を設け、知識や技術の習得が出来るよう努力している。職員の研修計画も作成されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士が意見交換や情報交換を行いサービスの向上に努めている。また認知症を地域の人々に理解してもらおう取り組みも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前見学に来て頂き、ホームの特徴等を説明し、他の利用者に紹介し、お茶を飲んで話す機会を設けている。本人や家族の希望を聞き安心して馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いに支えあうケアを大切にしながら普通の暮らしの中に利用者や職員が支えあう関係作りに重点を置いて実践している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案や見直し時は、利用者や家族の意向を記録し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者が出来ること、興味のあること、一人ひとりにあった計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月の見直しとしている。日々の観察により変化が生じたとき 家族・職員・看護師・主治医等によるケース会議がもたれ、現状に即したケアプランの見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が取られており、日々の状況説明が必要な場合などの通院介助、独居の方のふるさと訪問、理美容の訪問が月2回あるなど、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切に、本人・家族の希望される医療を受診できるよう支援している。主治医との連携を取り家族・職員等情報の共有がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族が望む終末期のあり方について希望を知るようにしている。重要書類の中に「看取りに関する指針」があり、「看取り介護内容」も明記している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を理解し職員は見守りとさりげない介助により利用者のプライバシーを守るようにしている。写真・記録等の個人情報の取り扱いにも注意し、本人・家族等の了解を得るようにしている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの好きなこと得意なこと等を生活の中で活かせるようにし、無理強いしないで本人が本当に望んでいることを支援する取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう 一人ひとりの力量により食材の買い物・食事の準備・食事作り・後片づけなどの役割を担い、利用者と職員と一緒に調理し、共に食べている。月1回クッキングの日とし、利用者の食べたい物を作ることにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や状態により、好きな人は毎日入浴でき、体調の悪い人は足浴をおこなっている。お風呂が苦手な方には仲の良い方に声かけしてもらい一緒にいるとか歌を歌いながら入浴するなど週2回は楽しんで入浴するよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの好きなこと得意なこと等を生活の中で活かし、張りのある生活ができるようにしている。例えば調理・手芸・園芸・計算やパズルの得意な人など職員の得意分野と合わせながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や体調により利用者に合わせて外出の支援をしている。買い物には週3回 職員と利用者が一人ひとり組になり2組が出かけたり、利用者の買いたい物があるときの支援、その他洗濯物干し、庭の落ち葉の掃除など外に出る機会を作って支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないで安心して過ごせる生活、いつでも自由に外出できる安心感を感じてもらえる職員の勤務体制、のれんに触れると音が鳴るなどの工夫がされ、玄関の見守りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練と消防訓練をおこなっている。施設内での危険箇所などについて話し合い、いざという時に慌てないようにしている。非常用食料・備品等は準備しており、地域の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量は記録を取り利用者一人ひとりの嗜好や食べやすい形態等を把握し、栄養のバランスも栄養師の指導を受けて食事が楽しみとなるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く多目的に使用できるよう設計され、利用者がそれぞれ自分のしたいことができるように支援されている。新しく清潔感があり広い窓からは庭が見渡せ四季折々の景色が見られる。穏やかな雰囲気ですっきりと時間が流れていく感じである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に使い慣れた家具や馴染みの品を持ってきてもらい居心地の良い居室となっている。広い部屋であり家族の訪問があっても利用者の部屋でくつろいでいける状況である。		